

風評払拭、消費拡大PR

銀座のビルにあんぽ柿

伊達の生産者らつるし作業

東京・銀座で四日、伊達市特産「あんぽ柿」のつるし作業が行われた。東京電力福島第一原発事故で二年間、加工・出荷の自粛を余儀なくされたあんぽ柿の風評払拭（ふっしょく）と消費拡大を目的にした伊達市のPR事業で、銀座三丁目紙パルプ会館玄関前に約四百個をカーテン状につるした。

伊達市農林業振興公社、NPO法人銀座ミツバチプロジェクトとの連携事業。二〇一五（平成二十七）年度から続けており、五年目を迎えた。

伊達市梁川町の生産者や銀座の飲食店関係者らが柿の皮をむいた

後、薫蒸した。同プロジェクトの田中淳夫理事長は「もはや銀座の風物詩。柿の熟成過程を見て楽しんでもらいたい」と話した。

銀座周辺は伊達市に比べ気温が高いものの、ビル風で柿の乾燥、熟成が進むという。生産者代表の一條篤さん（左）は「銀座美人のあんぽ柿になってくれるだろう」と期待を寄せた。来年一月十五日に収穫し、交流会を催す。



銀座のビル街にあんぽ柿をつるす生産者ら。手前右は田中理事長